「通信制大学院における研究の進め方（ポイント）について」

社会福祉学専攻　形岡　拓文（平成 30 年度修了）

研究の進め方などは，各人それぞれのスタイルがあると思いますが，通信制大学院で勉強・研究を成功させるためのポイントとして，私なりに大事だなと感じられたことについて，ご紹介したいと思います.

①モティベーションの維持

通信制大学院に進まれた方は，多かれ少なかれ，実務経験や生活上の体験など，福祉に関する何らかの「現象」（福祉需要者や日々の実務や生活）を前にして生じた疑問を解消するという目的意識があるのではないかと思います.

モティベーションの維持は，そうした初心を提供してくれた現象あるいは原体験とも言い換えられる事柄をよく見つめ直すこと，あまりにも当たり前のことではありますが，この原点回帰を忘れないということではないかと思います. そして，ご自身の現場なり生活などにおける現象の背後にある構造を見透し，ご自身の日々の実践が結局のところどういう「意味」を持っているのか知りたいということにこそ，研究の初心があったのだということを繰り返して確認することが重要になると思います.

また，通信制大学院における多くの研究のように，実践や体験などの具体的な現象に端を発して抽象的な理論や意味を引き出そうとする，いわゆる帰納型の思考は，新たな「論点」を発見することも少なくないと思います. 一般的な研究者や政策関係者による多くの研究・検討のように，理論や知識から適用を導こうとするいわゆる演繹型の思考においては，現場レベルでは当然とされている要素が，（現場から見ると意外にも）論点から落ちていることも少なくありません. このため，社会政策や社会福祉に関する理論や適用は，一見して無難な結論のようであっても，総じて奇妙な結論となっていることも散見されます. ご自身の現場で問題となっている重要な論点が，学術的・政策的な論点として挙げられていないのであれば，ご自身の体験がおかしいのではなく，そうした事実をくみ取れていない学術や政策が不十分なのだと考えられます.

このように，通信制大学院における多くの研究は，各人の取り組まれている福祉実践を意味づけるという個々の意義と，学術界における問の発見を促すという総論的な意義があります. こうした研究の意義を自信をもって再確認すれば，修士課程を進んでいくモティベーションは，自ずと維持されると思います.

②文献レビューによるインプット

通信制において，スクーリングの機会を十分に有効に活用することは言うまでもありませんが，そうとは言っても，勉強の中心となる文献学習を効率的に行うことがとても大事に

なります.

まず，読むべき文献は，科目担当の教員が紹介する参考文献リストを基礎として読み，その文献中で触れられている参考文献の中で，気になるものを更に読んでいくという形で，芋づる式にレビューを進めることになります.

次に，個々の文献の読み方について，スタイルを確立されている方はその方法によれば良いと思いますが，そうではない方におかれては，やや当たり前過ぎることでもありますが，次の点に留意しつつ進められてはどうかと思います.

- 重要な箇所（新たな知見，賛同する内容，納得いかない内容）にはマーカーを引く
- 考えたこと感じたことは，その都度，文献の該当のページの余白にメモを書き込む

どんなに感銘を受けた文献であっても，論文を書き始める頃（半年後や１年後）には，内容は忘れているものです．一度読んだ文献を改めて一から読み直すのは骨が折れるものですしモティベーションの低下にもつながります．このため，必要に応じてパラパラと斜め読みすれば重要なところが目に入ってくるように書き込みをしておくことがとても重要です.「本は買って読め」という格言（？）があるようですが，通信制の学生には特によく当てはまる金言だと感じます.

私の場合は更に，重要文献のマーカー箇所は，片っ端からパソコンに打ち込むようにしています．そうすれば，後でキーワード検索も可能となり，特に記憶力に自信のない方には重宝します.

③レポート執筆における論文の「型」の獲得

科目を担当する教員によっては，せっかく提出したレポートの形式だけを理由に，再提出を求めてくることがあります．そうなると結構ムっとするものですが，レポートという小世界で，論文の型を体得しておくことは後々重宝しますので，怒らずに書き直すことが肝要です.

以上，ご参考として取捨選択しつつ，有意義な学びが展開されることを祈念します.